

渾圓球上上下下幾千歲古今東西の歴史をしらべて見ても人間が此世界に純然たる孤獨の生活を營みたる事跡はない蓋わり得べからざる事なのだ譬ひ首陽山に隠れて薇を食して生活すとも身を雲水に任せて富貴利達を忘るるとも直接なり間接なりに社會に影響し社會に影響せらるゝことは到底免るべからざる數であつて今假りに人間が此世界に於て皆孤立して棲息すとせんか人類の繁殖する道理はないし愛とか同情とかいふ慾望の達せられざるは勿論其他あらゆる慾望は決して満足し得らるゝものでないなせならば其孤立せる人類相互の間の競争といふことは無いと假定しても更に他の動物との衝突もあるべく而も猛獸のごとき鋭爪と毒蛇の如き齧牙とを有せざる人類は忽にして彼等の餌食となるのを免れないことは明瞭であるからである

そこで斯様いふことになる人間といふものは理論上實

際上自然に必然に社會を成して生存すべきものであつて人間は社會に於てのみ彼等の慾望を満足することが出来る人間は社會を離れて孤立しては一日も生存し得べからざる者である社會は人間の走るべき唯一の軌道である古哲アリストテレスが人間は社會的動物なりと喝破せしは實に千古不磨の名言である (未完)

### 幼兒保育につきて

東 基 吉

そこで此間一の組の子供に板并べを致しました所が當り前ならば平面に并べなければならぬ板をば、こう云ふ風に、立てゝ山とか山脈とか云つて居る、夫から又其側にこんどは板を平面に并らべて、汽車と云つて居る。當り前の原則に従へば、これは許されぬのである、一を立體にして立て、一を平面に并べるのである

から、其方法は間違つて居る、併しながら子供の考から云へば、これが反つて子供らしいのである。夫を何でも表出の方法が違ふからと云つて、無理に平面的に并べさせぬばならぬと云ふのは、即大人の心を以て、子供に強ゆるのである。昔の地圖で見ても、開けない時の地圖は、山を山なりに立て、書き、湖水は平面的に書いて居る。今日吾々の目から見れば不都合と云ふのであるが、昔の人は夫でよく分つたので、つまり子供も此方法が反つて分り易いのである。然るを板はレベルがさう云つたからとて、何でも乎でも平面に并らばさせぬばならぬと云ふのは、即子供の自然に反したやらせ方ではありませぬか、子供の自然の發表に従ふと右の様に種々面白いものが出来るので、此間も分室の子供に私がやらせたのは、積木も板も紙も粘土も凡てを一度に與へてやらせて見たのです。さうする

と子供は一方では積木で以て家を造り、一方では板をたて、塀を作り、或は紙で旗を拵へて喜で居るのです。

抑々吾々に顯はれる自然の物體は、一方から云ふと體も線も面も點も皆一樣に具へて居るので、恩物の材料はつまり是等に適合する様に出來て居るのでありますれば、何も板であるから箸であるからと云つて、必ず平面的に併べさせなくても、例へば此机でありますれば、板で以て机の面を拵らへ箸で以て脚を拵らへる様に、之を交せ合せて、種々にして使つて宜しいのみならず、反て夫れが發表の自由を得しめるのでありますし、又夫をそうして使用する中に若し必用がありますれば、子供は立體から、だん／＼抽象に至る具合を知るのであるうと思ひます。

故に子供に材料を予へるに積木ならば積木丈を與へて、此れで積木丈の物を造らせるとか又箸丈を使つて

此れで箸丈で出来る物を並べさせると云ふ様に、子供に一種類のみを限つて、予へて、其一種類丈の物を、弄ばせると云ふのは、つまり、吾々の思想を以て子供の思想を制限した者でありますまいか、種々な物を一度に與へて、何でも思ふ様に、種々の方面に、使はせれば、子供は子供らしい思想を以て、併も自然に合つた方法で發表するのです。其所で今申上げた要點はつまり、恩物の材料は其思想の發表の四の形式に従つて出來て居れども、それを一つ一つの形式に限つて用いさせ様と云ふのは、無理でありますから、もし子供の自由に任せて子供の好いた通にやらせ様と云ふに歸するでありますから、さうすれば子供の思ふた様に發表いたしますから、さういふ工合にやらせるべきだと云ふに歸するのであります。

それから論點は違ひますが、幼稚園の重なる所は子供

の社交的本能と云ふ事を指導するにあらざれば、今日の様な工合に、一人々々に同じものを與へて、三十人が三十人まで、皆一人一人に同じ物を造つて居ると云ふ様に、せずに多數の子供が幾組にも別れて一組はあらの方で粘土で山を作り、一組は積木や紙で汽車を拵へる者もあり、一方では、門を拵へ或は隧道を拵へる者があり、さうして、皆出來た所で相倚つて、一の物が出來上る、即其れを持寄れば、全體の景色が出來て或は山に橋の懸つたるものがあり隧道があり、一方にステーションに旗を立てて居ると云ふ者が出來て誠に面白い。さうすれば子供の共同的の仕事で、皆が寄つてやつて、一の仕事成就する、これは敢て私の新發明の考と云ふのではないので、フリーベルが言つて居るのを御紹介したのであるが、それは今日の所では、行はれて居らぬのですから、其れをやることなどは頗

る宜い事であらうと思ひます。そうすれば、子供の共同性を導くには最も適切だと考へます。

それから少し脱しまして、童話の事になります、此事は會員乙竹君が前に出てお話をして下さる筈でございましたが、出られませぬので、其原稿が教育の第五號に載つて居ります、至極有益の事と思ひますから御一讀を願ひます。そこで私はもう一つ他の側のお話をしたいと思ふ、童話に就ての教育上の價值其他の事は餘程前から既に認められてる事ですが、童話の目的は子供の想像力を高める事と難かしい道德的の事を具體的に子供に判り易く知らすと云ふ事の二に歸するのでせう。或る論者は罪惡などと云ふ事は實際其人が苛烈な性質を持て居るからやるのではなくて寧ろ想像力が足らぬから犯すので、つまり、其人が他人の位置に身を置いて他人の位置を想像してやる事が出来ぬからだ

云つて想像力の足らぬことに歸して居ます。然らば想像力を高めさへすれば、どう云ふ童話でも宜いかと云ふにさうはいかぬ。童話の材料の中に選擇はせねばならぬ。其所で或る學者は、童話を選択するに、子供らしい義務と云ふ所から導きて、子供には子供相應の義務、即ち父母に對する義務、兄弟に對する義務、婢僕に對する義務、それから、動物に對する義務と云ふ四から選擇すると云ふ標準を示して居ります。今日の實際の有様から見ますれば、標準は多くは或は忠義であるとか、或は國家であるとか、博愛であるとか、随分澤山な方面から、擇んで居ますが、學者の説はさう童話の數は多きを要せぬ、フレイベルの云つてゐる所に依つても子供と云ふものは、元來一つの話を何度でも、聞きたがるものである、故に種々面白いものを取替へ引き替へするに及ばぬと云つて居ります。

又一方から言ひますと道德の根原と云ふものは愛と云ふものに歸する、其他のことは、この根本の愛が種々の對象に従つて種々な形式を取つたまで、ある。即ち

供の時に愛の情を深くして置分ば、種々の目的物が出るに從つて、夫夫に對する道德の仕方を悟るので何もさう、子供の時に一度に種々の方向に發生させる必要があらうか、眞愛を一つ發生さすれば宜いではないかとも考へられるのです。ですから此方面から考へましても、童話を撰ぶに種々多くの、而も難かしき標準からするに及ばないと考へます。

それから修身話と庶物話は、一方では、修身の話を授け、一方は庶物の話を授ける、これも注意せねば、幼稚園は智識を授けるを目的として居ると云ふ非難を受けるのです。智識から言ふならば、庶物は悉く授けねばならぬが、さう云ふ事は要らぬので、つまり、此二

つは殆ど分つ必要もない様なもので、庶物話といつても自然に童話の中に授ける事も出来るのです。

然らば話の結果を收むる其方法は如何と云へば子供には子供相當に話さねばならぬので熱心と云ふ事も要れば、又言葉の巧も要るが更に又子供の思想を錯雜させぬと云ふとが必要の條件だと考へます。夫は種々な應用の様なとや道德的の抽象などをやつて居ると、甚子供の思想を錯雜させることがあります。フレーベルが其書物に於て、子供に話をするに、必應用などは要らぬ、それから又道德的に訓言を其話の中から引き出す事も要らぬ、子供に話を聞かせれば、子供は自然に其中から取出す、其中の道德的思想を言葉添へて云はぬでも取り出すと云つて居りますが、又アドラーと云ふ人は話を面白く聞きよく子供に與ふるには話の中から道德思想を取り出して、子供に授けたり、又話を

聞かせて後で、道徳的意味だけを抽象する、さういふ

事はいけない、又話の目的を道徳の一方にむければ面

白くなくなる、子供には子供らしき點を存して置け、

猿蟹合戦の話ならば、其中から子供に道徳の事を纏め

て言つたりする、さういふ事は幼稚園の子供には要ら

ぬと云ふ様に云つて居ります。

それで今日申上た事は甚錯雜して秩序もござりませ

ず、夫に時間がござりませぬで、甚急ぎましたから、飛

ばしたり何かしましてお判りにくうござりませうが、

要するに保育は子供の自然に従ふべきである、然るに

今日は子供に望むに大人の考を以てする事が多い、談

をするにしても、遊戯をするにしても、はた、又恩物

を弄ばせるにしても、頗大人の心を以て解釋して居る

事が多いですから、今少し自由に、子供には子供らし

くやつてはどうかと云ふ事に歸するのでござります。

甚御清聴を煩はしました。

は き よ せ

清水 鶴

唱歌は幼児の最も好むものにして教育上亦最も必要

なるものなれども十分の注意を以て歌はしめざれば唯

狼りに怒聲を發して害を殘すに止むべければ其の適當

なるものを撰び宜しく相應に練習せしめんこと必要な

り一時流行の唱歌例へば鐵道唱歌の如きは興に乗じて

殊に怒聲を發すること多し又此等の歌詞を下品に造り

かへてうたへるものあり何れの邊より出でたるかは知

らぬと幼児に聞かしむべきものにはあらざるべし

紙を摺みて鶴香箱等を造るとは昔より廣く行はれし

遊びにして最も面白きものなれども其の摺み方複雑な

るもの多く幼児にはむづかしといふ人ありされど必し